

エコファミリーキャンペーン

昨年 11 月 18 日(日) エコファミリーキャンペーンの一環として“水上バスに乗ってスタンプラリー”というイベントが当会が会員である NPO 法人大阪府民環境会議 (OPEN) と大阪府との協働として実施されました。

このキャンペーンは地球温暖化対策に有効とされる公共交通の促進を進め二酸化炭素の排出抑制を、また、自動車と公共交通のバランスがとれた交通社会の実現を目的とし、11 月中は土日に限り協賛バス・水上バスの運賃が大人 1 人につき同伴の小学生以下 2 人まで無料になるといった取り組みを行うもので、その取り組みを広く市民へ PR することを目的としているのがこのスタンプラリーイベントです。今回は大阪市内の大阪天満宮・OAP 港・天神橋筋商店街「天三おかげ館」の 3 点をポイントとしたスタンプラリーが行われました。

水上バスで大阪散策、天満宮でお参り、天三おかげ館ではリモコンバス体験とこの 3 点全てを回っていただいた方にはプレゼントの進呈があり、参加者の笑顔をたくさん見る事ができました。

自動車 1km 利用による 1 人当たりの二酸化炭素の排出量は、バスに比べ約 4 倍になります(1)。近年では、燃費のよいエコカーや石油の使用量を軽減するエンジンを搭載したハイブリッドカーの台頭等、車の形にも変化が求められている現代ですが、技術のみならず人々の生活様式の変化が同時に求められているように思います。

(1) [出典] 地球温暖化対策ハンドブック地域実践編 2002/2003



[左]キャンペーン中に掲げられるのぼり[右]ラリーポイントの OAP 港



傘がテントになりました



[傘テント]
作製 グリコ交野 / 坂本茂代

生活の中にある物を有効活用するリサイクル精神を災害時にも活用できないか...そんな思いから使えなくなったビニール傘がテントに変身しました。

使わなくなった、または使えなくなったビニール傘を何も足さない何も引かないをモットーとして分解をした骨格部分の鉄は業者へリサイクル、残ったビニール布をすべて使用します。

今まで買い物袋を目的としたエコバックを作製、普及に努めていました。そんな中、大規模な自然災害や大地震等自然の厳しさを多く目にする機会が増え災害時に役立つ“エコ”を見つめているとテントが誕生しました。

この傘テントをどのように活用すればよいか、非難所におけるプライベート確保、着替えの空間間仕切り、トイレ部屋等々、有用性の模索はまだまだ発展途上のこの取り組みですが今後に乞うご期待です。

この傘テントは昨年 12 月 9 日(日)大阪ビジネスパーク・ツイン 21 アトリウムにて開催されました“地球温暖化防止 OSAKA アクション 2007”のブース展示に出展した際に PR を行いました。

このイベントは地球温暖化防止月間である 12 月に実施されることもあり「地球温暖化問題を考える 1 日」をテーマとして、ブース展示・コンサート・写真展等、また、よさこい踊りも披露されるなど堅苦しくない賑やかなイベントでありました。



当会ブースでの PR 風景